

ハンドボール競技におけるグループ戦術の構造に関する研究  
～ポストとフローターのコンビネーションプレーの分析～

高階和也(中学校課程・保健体育専攻)

序論 研究動機・目的、方法

著者がこれまで深く関わってきたハンドボール競技における、グループ戦術の構造に着目し、運動学的立場に基づく運動の質という観点からゲーム中のオフense場面を分析していく。その中で、とりわけフローターとポストのコンビネーションプレーに注目し、ポストがどのようにして攻撃の成功に貢献しているのかに迫る。

実際の分析は、1997年男子ハンドボール世界選手権大会におけるスウェーデンチームの全試合のビデオの中から、基本となる典型的なプレーをいくつか選んで行なうものである。

本論 第1章 ゲーム分析とは

ボールゲームにおいて、競技力の到達水準を点検し、トレーニング効果を検査するための最も重要な手段はゲームである。しかし、ゲームの分析は、従来のスコアシート等を用いた量的分析にとどまりがちで、運動の質的な部分にまでは踏み込んでいかないというのがほとんどである。そこで、球技論的立場からの観察とモルフォロギー的立場からの観察について把握していき、運動の質的な部分を分析していく印象分析の重要性を確認する。しかし、印象分析は主観的性格が強いため、マイネルが規定した運動経過を明確にしていく8つのカテゴリー(スポーツ運動学 1981)を拠り所にし、客観性の伴う分析を試みていく必要がある。

第2章 ハンドボール競技の特性

ゲームを分析するに先立って、ハンドボール競技の特性を整理しておかねばならない。ゲームの特性としては、2チームのメンバーがボールを奪い合いながら相手チームのゴールにボールを投げ入れ、味方チームのゴールを相手の攻撃から防御することがいえる。技術の特性については、ボールを所有している場合と所有していない場合の動き

の体系、ボール取得、パス技術、シュート技術、ドリブル技術、フェイント技術の体系について表にしてまとめている。また、グループ戦術については、ゲームの一場面をつくるときの内容に関わりをもつものであり、基本的な共同プレーは、攻防のゲーム状況を解決するため2人のプレーヤーが行なうさまざまな共同作業である、といわれている。

第3章 分析の実際

本章では、ポストとフローターとのコンビプレーを、ポストを中心とした視点から印象分析を行なう。観察の枠組みは、位置取り、フローターとの合わせ、パスを受けてからの動きの3つに大別した。尚、印象分析が主観のみに陥らないように、諸カテゴリー、プレイアブルの概念(SYMPOSIUM FOR TRAINERS AND CHIEF REFEREES 1995)を拠り所とした。

分析の結果、コンビプレーの基本となる典型的なプレーでは、自分の動きの「先取り」、フローターの動きの「先取り」、相手ディフェンスの動きの「先取り」が正確に行なわれていることが明らかとなった。また、ここで分析した事例をもとに、ポストの動きについて(パスを受ける前と受けてからの動きの特徴)を考察し、(プレイアブルの概念に基づいた分類)をも試みた。

結論 オフense場面において、得点に結びつくコンビプレー(ポストとフローターによる)には非常に高い同調が認められる。ポストとフローターの互いの運動投企の「先取り」が正確なのである。さらに、その運動経過には、優れた運動の諸徴表が浮き彫りとなって現われていることも明らかになった。

ゲーム分析は、量的な結果を見ていく傾向が強いのだが、運動の質的分析の意義、重要性には多言を要しない。しかしながら、運動を質的に分析していく印象分析には依然として問題点や課題(観察には優れた観察力が必要、客観性に欠ける)が残されている。今後は、そのような問題を解決すべく、より簡潔で客観性のある分析をしていかなばならない。

(主要参考文献省略)